



わだ かしお
和田 甲子雄

にほんきょうざんとう つしぎだん
日本共産党津市議団

学校給食協会不正経理は食育の立場で解決を

問 県の給食会からの食材購入をやめて、食育の立場から学校給食業務の見直し、津市学校給食協会の解散、公会計で透明性の確保を。地元の業者からの食材購入、地産地消で教育委員会の責任で給食業務を。

学校給食は教育指導の一環で食育と位置づけられている。義務教育は無償とすべきであり、給食費の無料化を。

答 津市学校給食協会については、津市の一部地域のみ業務を行っていること、任意の団体でありながら多額の現金を取り扱っていること、役員構成や事務の執行体制を見直す必要があることなどから、当該協会の業務をできる限り早期に停止し、新たに全市的な給食業務を行う制度や仕組みを整えていく必要があると考えている。

また、食育については、地産地消を一層推進しながら、生きた教材として学校給食に取り組んでいく。

次に、給食費の無料化については、学校給食法の規定により、保護者の負担とすることとなっていることから、津市においては、当該規定に基づき、保護者に負担いただきたいと考えている。

●その他の質疑・質問●

- 災害に強いまちづくりを
 - ・河川の氾濫から浚渫の推進と今年の出水期の安全対策は
 - ・津波浸水予測地域内で3階以上の津波避難所、ビルのない地域とその対策は
- 一身田大古曽のJR紀勢本線試験場踏切の閉鎖時間の短縮を
- 一身田寺内町の町並保全で歴史ある家屋の保全、景観整備を
- 空地等の草刈り条例を など



▲教育の一環である給食の無料化を（写真は給食センター）



かとう みえこ
加藤 美江子

こうめいとうぎいんだん
公明党議員団

施政方針より「決断する市政」とは

問 市長の施政方針には、「課題や懸案事項を決して先送りせず、スピード感を持ってその解決に向けた方向を見出し、責任感を持って実行していく」とあるが、津市における少子高齢化問題は大きな課題である。

市長はこの問題にどのように立ち向かっていくのか、施策としても決断していかなければならないと思うが考えはあるのか。

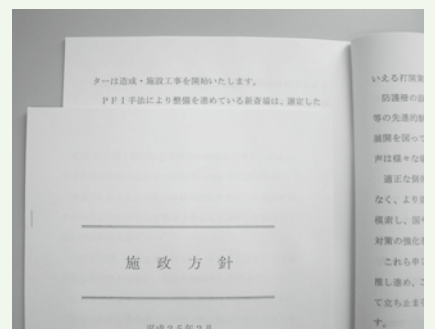
答 少子高齢化対策については、保育所における待機児童削減のための定員の拡大や高齢者の施設入所待機者の削減を実行していく。

それに加え、不妊治療や不育治療などといった少子化対策については、非常に重要な問題と受けとめていることから、平成25年度当初予算への予算計上や津市総合計画後期基本計画においてその方向性を示すなどしており、少子化対策にきちんと取り組んでいくことが大切だと考えている。

また、高齢者の生きがいづくりについては、身体的な健康はもとより精神的な健康も非常に大事であることから、健康福祉部において今後のことを考えていかなければいけない課題であると認識している。

●その他の質疑・質問●

- 施政方針より
 - ・「対話する市政」とは何か
 - ・「前進する市政」とは何か
- 教育方針より「安心、安全な教育環境を提供するため真っ先に取り組むべき課題」として、いじめ、体罰の撲滅について
- 生活保護受給者の自立支援は
- 産後ケアの充実を
- 避難所運営モデル事業について など



▲少子高齢化問題に立ち向かう施策の「決断」を